

## 平成 26 年度第 5 回宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画策定審議会議事録(要点筆記)

平成 27 年 2 月 26 日(木)19:00～21:00

宗像市役所 第 2 委員会室

出席者

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
池添 昌幸	出	前田 誠	出	牧 敦司	出
南 博	出	横山 麻季子	出		

印は会長、 印は副会長

質疑・意見

(委員)

今回は前回の審議の続きとなる。審議は用途ごとに行う。気づいた点についてご意見を頂きたい。市民文化・社会教育施設について、ご意見はあるか。

(委員)

方針について質問がある。「図書館のサービスの在り方の検討に合わせて、機能の集約化を検討する」とあるが、どのようなことをイメージしているのか。

(事務局)

現在、図書館サービスの在り方の検討がされており、その検討結果を踏まえるということである。集約化の方針を掲げているため、このように記述しているが、最終的には図書館サービスの在り方の方針を踏まえて決定する。

(委員)

図書館に関する機能を集約化するということがピンと来ない。図書館は多岐に渡る機能があり、最近ではビジネス・産業に役立つ公共図書館の在り方が議論されているが、この議論はその段階ではなく、もう 1 段上の議論ということなのか。

(事務局)

図書館サービスの機能の在り方について担当課に確認の上、わかりやすくなるように記述を改める。

(委員)

社会教育サイドでの検討なので、この場でどうこうということではないが、図書館はたくさんの人に利用される姿が望ましい。子ども向け、ビジネス向けにする、売れている本中心に構成するといったように独自性を出すという意味で集約化するのではなく、多機能であることが望ましいと感じる。

(委員)

図書館の記述については気になっていた。宗像市は、複数の図書館機能が4つ(3館1分室)に分散し、既に複合化が図られているが、施設として集約化するというように読み取れる。施設なのか機能なのかを明確にする必要がある。施設の集約化ということであれば、既に分散化しており、課題というよりは、良い面ととらえることができる。各図書館はそれぞれ蔵書に特徴があり、また地区の利用がある。今後蔵書が増えていく中で、既存の余剰施設を利用し、地区施設のように図書館機能を充実させることも考えられる。つまり、今後のサービスの在り方として、図書館機能を小規模分散型にするという可能性もあるのではないかと。集約化という言葉を見直し、サービスの在り方の検討にあわせて長期利用が可能になるように施設の形態を検討するという形にしてはどうか。

(委員)

対象施設が3つの圏域にまたがっているが、広域・市域と地域を分けて記述した方が良い。「地域施設の更新の際は、当該地域内の他の地域施設に分類される公共施設との複合化を検討する」という文章が非常に難解になっている。大島島内のことを指しているのか、記載の趣旨がわかりにくい。具体的にイメージが伝わったほうがよい。コミュニティセンターの更新時に合わせて複合化を検討するとあるが、コミュニティセンターの更新の際に他の地域施設も更新するというのはリアリティがあることなのか。また、「将来人口を踏まえて規模の適正化を検討する」というのは、広域、市域、地域それぞれの人口を踏まえてという趣旨だと思うが、これも書き分けた方がいいのではないかと。この部分は文章がわかりにくいので、内容の補足をしてほしい。

(事務局)

計画では延べ床面積100㎡以上の施設を対象としているが、消防の格納庫など100㎡未満の小規模な地域施設の更新の際にコミュニティセンターへの複合化を行い、駐車場等の共有スペースを図る等を想定している。また、更新の際は、広域、市域、地域施設すべて、それぞれ将来人口を踏まえて検討することを共通項目として掲げている。

(委員)

そのような趣旨であれば、この記述内容では読み間違える恐れがある。広域、市域、地域それぞれの将来人口を踏まえてという文言を加えれば誤解がなくなるのではないかと。

(事務局)

区域ごとに書き方を分けることで対応する。

(委員)

ここに記載している地域施設として 100 m<sup>2</sup>未満の施設を想定しているのであれば、誤解がないように具体的に記載した方が良い。また、3 つの圏域にまたがるので、圏域ごとにわかりやすい記述をお願いしたい。3 つの圏域に分けて記述するのであれば、既存の施設の利用という話がでてくるので、全体の記述にも影響する。そのあたりを踏まえて検討してほしい。

(委員)

保健・医療・福祉施設について、ご意見はあるか。

(委員)

現状について、保健・医療・福祉の各サービスとして宗像市はこのように進んでいるということを記載してはどうか。これまで在り方を検討してきた経緯を現状として盛り込んだ方が良い。

(事務局)

担当課に確認し、その点を現状、課題のどこに記述するのかを確認した上で、記述を加えたい。

(委員)

保健・医療・福祉の各サービスは民活化という大前提の方針があって、サービスが届かない部分を行政が補完するというスタンスを明確にしても良いのではないかと。また、「これらの施設と地域施設である大島行政センターとの複合化」とあるが、「これら」とはどこにかかっている言葉なのか。民間では手が届かない行政が補完している施設については、人口が減ったからと言って規模を小さくするという性格のものではない。リアリティがないことなので、このように書かなくて良いのではないかと。記述している文章がわかりづらい。

(事務局)

これらの施設とは国民健康保険大島診療所と大島福祉センターを意図している。

(委員)

そうであれば、回りくどい書き方をしなくても良いのではないかと。

(事務局)

国民健康保険大島診療所と大島福祉センターについては、大島行政センターとの複合化を今後検討するという趣旨である。わかりやすい記述を心がけて修正する。「将来人口を踏まえ規模の適正化を検討する」という記述については、全ての用途において共通項目として掲載しているが、大島がそれに当てはまるのかについては検討が必要であり、どのように記述するかを検討する。

(委員)

用途分類別方針としてこの書き方が適切なのか。すべて共通の内容をあてはめるのは難しい部分もある。各分野、地域の事情にあわせた記述内容にした方が良い。

(委員)

学校教育系施設について、ご意見はあるか。

(委員)

学校選択制が全国各地で行われている。学校選択制を宗像市内で広げる可能性はあるのか。その点を視野に入れなくて良いのか。

(事務局)

玄海の一部と赤間については、通学区域の選択ができる。今後国の基準に基づき統廃合を検討する中で議論の核となる部分と認識している。選択制を広げるのかどうかは、総合教育会議で議論されることなので、この場で答えるのは難しい。

(委員)

通学区域の見直しというところに広い意味でその内容が含まれているという理解で良いか。

(事務局)

それで良い。

(委員)

この部分は箇条書きの中で一番最後にかかっているが、最初の方に書いた方が良い。箇条書きの順番も検討してほしい。

(委員)

全体を通して、それぞれの現状、課題、方針を記載しているが、施設規模に応じてその重要度が異なる。学校教育系施設は全体に占める施設の延床面積の割合が大きく、学校教育系施設のアセットマネジメントが重要であるということをどこかに記載する必要があるのではないか。かかる費用によってその在り方が異なるため、規模の違いに応じてどうするというをどこかに記載した方が良い。

(事務局)

前回の審議会でも用途分類別方針をどこまで書くのかというご指摘を頂いた。どのような形で現状、課題、方針を用途別に書き込むのかを事務局で検討し、次回提示する。

(委員)

学校と給食施設では施設の方向性が異なる。方針を分けて書いた方が良いのではないか。方針の「民活化、包括委託等の様々な工夫により」という記述は給食施設の記述だと思うが、小・中学校の記述と読み取れなくもない。小・中学校の民活化、包括委託とはどういうことなのかという話になりかねない。

(委員)

各個別の方針に合う形で表現を工夫してほしい。重点施設については、比重がわかるように示すかどうかは、全体の構成とのバランスがあるので、前半で記述するかどうかを検討する必要がある。用途分類別方針には比重について記載しない方が良い。学校は重要な施設であるので、そのことがわかるような表現については検討した方が良い。

(委員)

市営住宅について、ご意見はあるか。

(委員)

市営住宅は単独で単長寿命化計画やストック活用計画が策定されており、そこに細かな内容が記載されている。宗像市には大規模の UR の団地があるため、その記載については避けて通れないが、「都市再生機構の住宅をはじめ他の民間賃貸の活用を検討する」という記述は誤解を招く表現ではないか。「活用」という表現は、民間住宅を借り上げる、もしくは民間住宅を市営住宅として使用するという誤解を招きかねない。役割を分かち合うといった内容の表現にした方が良いのではないか。実際に、市営住宅の入居者に UR や民間住宅に入ってもらうのは難しい。表現を慎重にした方が良い。

(事務局)

民間ストックの活用という意味でそのような記述をしている。誤解がないように表現を検討する。

(委員)

更新の際は以降の文章自体が誤解を招きそうな表現になっているので、市営住宅の役割を検討した上で、民活化と型別供給については分けて書いた方が良い。また、UR の住宅を民間賃貸住宅とする表現も気になる。

(事務局)

「検討」という表記は可能性を探るという意味で使っている。多額な更新費用をかけるよりも民活等の検討テーブルに乗せるという意図で記載している。

(委員)

この内容は居住のあり方にもかかわる大きな話であり、将来的な話でもある。

(委員)

個々の市営住宅の維持更新計画を提示したときに、この住宅とこの住宅をどうするということが具体的に読み取れることに懸念がある。広い意味では良い。

(委員)

市営住宅についてはいろんなことを検討していくという趣旨なのだと思うが、集約化も検討に入っているのか。

(事務局)

小規模な市営住宅もあるので、小規模な市営住宅の集約化ということは考えられる。

(委員)

近年、コンパクト化、ネットワーク化と言われているが、集約化して便利の良いところに公営住宅を整備するというのは住む側にとって良いこともあるのではないか。秋田県の自治体では、福祉センターの近くに公営住宅を集約化し、山間部の住宅の居住者(希望者のみ)が移住した。住む側が安全、安心して暮らせる便利の良い場所に集約化するというのも一つとして考えられるのではないか。

(事務局)

民活化については検討テーブルに載せることになっているが、集約化の記述がないのもどうかと思うので、担当課に確認の上、記述を検討する。

(委員)

地区の実情を踏まえてどうあるべきかを検討すべきである。実情を踏まえた上での市営住宅における安全安心の生活の在り方というのは重要な部分であり、検討をお願いしたい。また、市営住宅は長寿命化計画がベースになると思うが、そのことは記載しなくても良いのか。

(事務局)

市営住宅の長寿命化計画は 2、3 年前に策定されており、既存施設を建替えというのが主な内容になっている。民活化等の視点はこの長寿命化計画の中にはない。方針の中にはその記述を加

えている。担当課に確認した上で、記述しない方がよければ、記述せずに、長寿命化計画を見直すということで対応する。

(委員)

その他の施設の方針について、ご意見はあるか。

(委員)

全体を通して、「民活化や包括委託等の様々な工夫により」と書かれているところもあれば、「更なる工夫により」と書かれているところもあり、あえて記述の違いをつけているのか。

(事務局)

指定管理等を現在行っているかどうかで、記述を変えている。対象施設として指定管理の施設のみが含まれている場合は、「更なる工夫により、…」と記載している。

(委員)

続いて、公共インフラの分類別方針について審議する。まず、道路の方針について、ご意見はあるか。

(委員)

公共インフラの方針全体を通して言えることだが、公共施設と比べて記載量が少ない。詳しく記載することはできるのか。長寿命化計画の骨子を入れるなど、何か検討しているのか。

(事務局)

橋梁、公園の長寿命化計画は策定したばかりで、この計画に基づき実行するため、アセットマネジメントと合せて計画的に実行ということになる。担当課に確認し、必要がある場合は記述内容を追加する。

(委員)

道路の在り方について、車両の通行量の多さだけでは判断できない要因もある。近年ではとくに災害時に確保するルートの方が重要になっている。何が重要であるかを考え、市民の生命・財産を守るために整備されているものについては、明確に記載すべきである。

(事務局)

災害対応の視点での優先度については担当課と協議し、記述を加える方向で考えたい。

(委員)

橋梁、公園、漁港施設、下水道全体を通して、ご意見はあるか。

(委員)

公園の課題の記述内容が薄い。社会情勢の変化に公園の在り方が問われているというのは、どのように捉えたら良いのか。

(事務局)

市内には遊具が設置された公園が多い。公園の用途について、少子高齢化等の社会情勢にあわせた在り方を検討するという意図である。

(委員)

子どもだけのための公園ではなく、高齢者等の多世代の人が利用できる公園にするということを意図していると思うが、もう少し具体的に記載した方が良い。ただし、あくまでも方針なので書き方については検討が必要である。

(委員)

公園は防災上の避難場所ということも求められる。市民の安全・安心をふまえて配置を検討すべきである。

(委員)

公園も利用圏域が分かれている。各公園の区分がどの利用圏域を想定しているのかについて現況で整理した方が良い。少子高齢化に対応した新しい公園の形や防災の視点を現況で整理し、課題・方針に反映させれば内容としても厚みができる。また、現在、公園の管理をシルバー人材センターに委託しているが、経費の削減という意味では、公園の維持管理活動に住民が参加することも記述に加えた方が良いのではないかと。

(事務局)

公園の利用圏域に関しては整理する。ご指摘の通り、公園は一時避難所であるため、防災の視点も加える。維持管理については、既に地元で維持管理を委託している施設もあるが、シルバー人材センターに委託している公園について地元で維持管理を委託するということを記載できるかどうかは担当課に確認する。

(委員)

下水道のところで記載されている予防保全については、他の分野にも共通する。記述が難しい部分もあるが、もう少し具体的の方針を記述しても良いのではないかと。担当課と協議の上、内容をわかりやすくしてほしい。



(委員)

「少子高齢化に対応した公園再整備」とは、子ども向けの遊具から、健康づくり向けの遊具に変えるというイメージなのか。

(事務局)

公園リニューアルの際には地元の人とワークショップ等を通じて公園のあり方を検討する。その上で、リニューアルの方針を立て、再整備を実行する。

(委員)

公園の再整備の中には廃止を含んでいないということで良いか。

(事務局)

含んでいないということで良い。

(委員)

防災的にも福祉的にも公園は重要なものであるが、アセットマネジメントの観点から捉えると、公共インフラの中で廃止できる可能性があるのは、公園と認識している。公共施設と異なり、公園は最初から廃止を除くという考え方になっているが、その趣旨を教えてほしい。

(事務局)

再整備の中で廃止がありうるのか、廃止する場合はどのようなことを検討するのかについて担当課に確認した上で修正し、次回提示する。

(委員)

廃止を推奨しているわけではなく、最初から議論の俎上に載せないというのは他との整合の面からどうなのかと感じている。

(事務局)

公園は 182 箇所あり、それぞれ大きさも異なるので、記述を検討する。規模に応じて 2 つの公園を 1 つにするということも考えられるので、担当課に確認した上で、内容を変更する。

(委員)

下水道は老朽化した設備をどう維持更新していくかがポイントとなるが、公園はそれだけではなく、災害対応、防災等の視点も踏まえて記載内容を検討してほしい。

(委員)

全体を通して、何かご意見はあるか。

(全員:なし)

(委員)

計画書としての記載方法については検討してほしい。現在のままでは誤解が生じる部分がある。検討の上、次回ご提示をお願いしたい。基本方針、公共施設用途分類別方針、公共インフラ分野別方針については承認ということにしたい。何かコメントはあるか。

(全員:なし)

(委員)

今後のスケジュールについて何かご意見はあるか。

(委員)

パブリックコメントは答申後に実施するのか。

(事務局)

答申後に計画素案についてパブリックコメントを行う。

(事務局)

第6回審議会の開催日を調整したい。3月23日(月)19時からでいかがか。

(全員:異議なし)

(事務局)

第6回審議会の開催日を3月23日(月)19時からに決定する。

(委員)

今後の審議内容を踏まえると、1回につき2時間の審議時間では厳しい。第7回以降、年度が明けからは18時開催ということで調整をお願いしたい。調整がつかない場合は19時からで調整する。